

第三期 射水市 子ども・子育て支援 事業計画策定に係る ニーズ調査結果

〔概要版〕
令和6年5月

「第三期射水市子ども・子育て支援事業計画」を新たに策定するにあたり、本市の現状と課題を把握するとともに、第三期計画策定に必要な基礎資料とすることを目的に本調査を実施した。

■ 調査対象（市内在住者）

未就学児保護者（1,500名）、小学生保護者（1,200名）、ひとり親家庭（617名）、小5保護者（743名）、中2保護者（846名）、中学生（1,606名）、高校生（865名）※

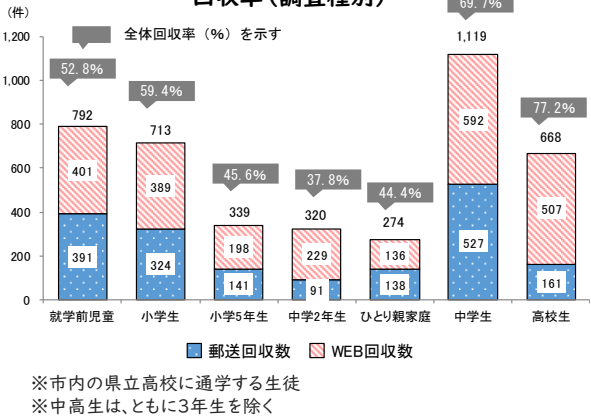
■ 調査方法

郵送配付-郵送またはWEB回収

■ 調査期間

令和6年3月8日-4月5日

回収率（調査種別）



子育て環境や支援への満足度は、就学前児童、小学生ともに[南西地区]が最も高くなり、居住地区によって満足度のバラつきがみられました。また、フルタイムで就労する母親は、2018年度調査から増加していることから、今後は、様々な就労状況に合わせた柔軟な子育て支援が求められていきます。

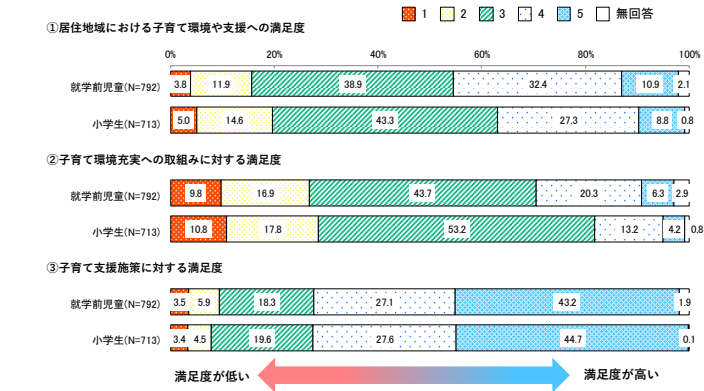
「就学援助制度を知らなかった」中学生保護者の割合は、2017年度調査から増加しています。制度をより広く周知させ、必要な家庭が利用できるようにすることが課題となっています。

本市のヤングケアラーの認知度は、保護者では7割弱から8割弱であるものの、中高生は2割から4割台にとどまっています。

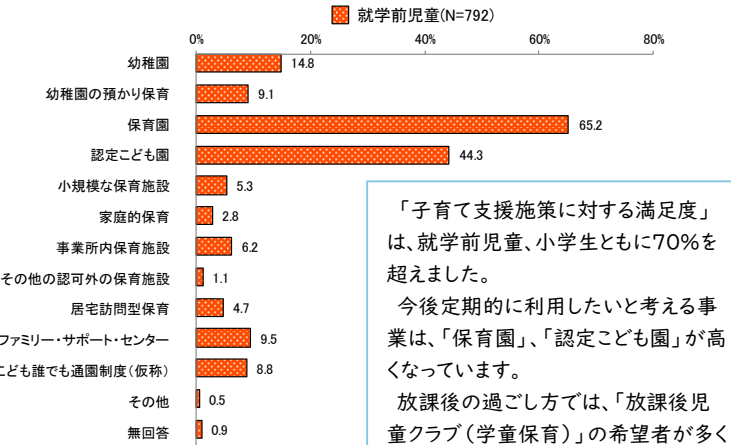
学校などを通じて子どもへのヤングケアラーの周知が必要ようです。

01 子ども・子育て支援ニーズ調査

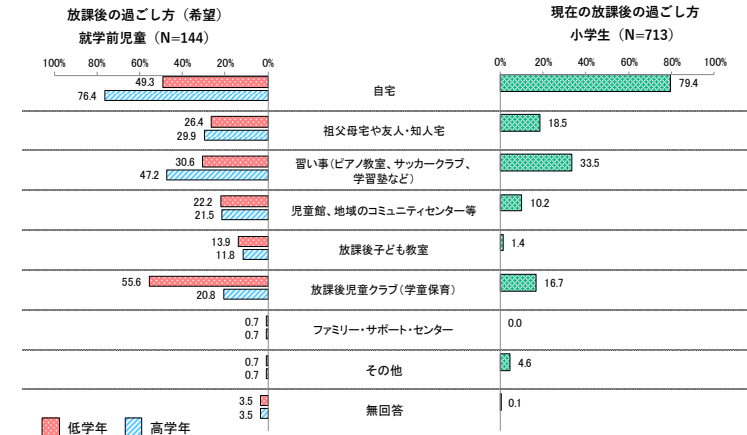
■本市の子育て環境や支援への満足度



■今後定期的に利用したい事業

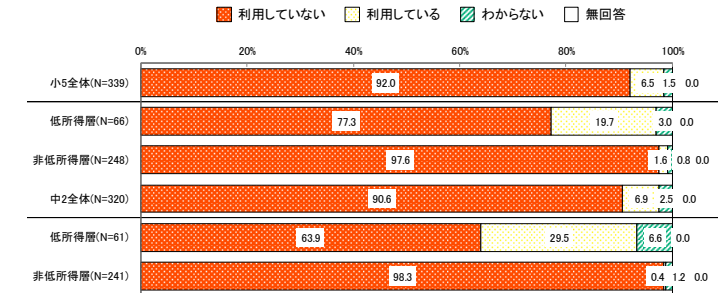


■放課後の過ごし方

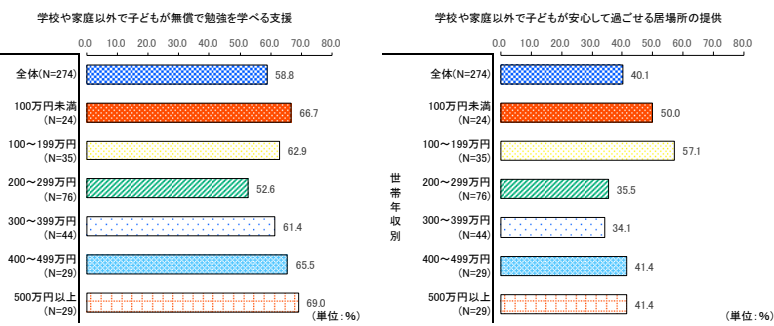


02 子育て家庭アンケート調査

■就学援助制度の利用状況



■利用したい支援やサービス（ひとり親家庭 左から上位3つ）



ひとり親家庭の利用したい支援やサービスは、全体では「学校や家庭以外で子どもが無償で勉強を学べる支援」が58.8%で最も高くなりました。

世帯年収別でみると、[400万円以上]では、「保護者が送迎しなくても、子どもの移動や交通手段を支えてくれるサービス」が6割を超えており、他の収入層より高くなっています。

03 本市中高生のヤングケアラーの実態

中学生の半数以上がヤングケアラーを

知らないことがわかりました。

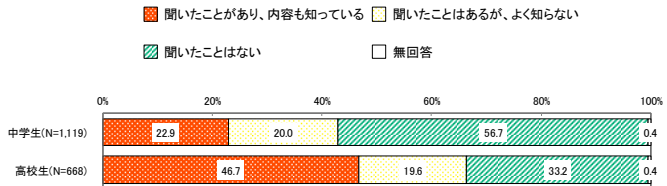
お世話をしている家族が「いる」と回答した

中高生のうち、自らをヤングケアラーで

あることを自覚していない子どもが一定数

存在することが考えられます。

■ヤングケアラーの認知度



■ヤングケアラーの存在と認知度

